

科目名	老年医学						
科目名(英)	Geriatrics						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	安藤 廣美		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	我が国の平均寿命は世界一位となり、高齢障害者が増加している。老年学に関する基本的な医学知識(病態、診断、治療、リハビリ)の習得を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				加齢に伴う変化(生理機能・運動機能・心理面)について説明できる。	
	○	○				高齢者に多く発症する疾患の概要を理解し列挙することができる。	
	○	○				高齢者に対するリハビリテーションにおける留意点、医療、介護、福祉サービスを説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:標準理学療法学・作業療法学 ~専門基礎分野~ 老年学(医学書院)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	老化と老年病、加齢に伴う変化(生理機能)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	2	加齢に伴う変化(運動機能・精神心理面)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	3	高齢者の定義・人口動態、高齢者との接し方			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	4	高齢者の機能評価、高齢者の退院支援			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	5	高齢者に多い症候と老年症候群、循環器疾患			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	6	呼吸器疾患、消化器疾患			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	7	骨・運動器疾患、神経疾患			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	8	精神疾患・内分泌代謝疾患			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	9	血液・免疫疾患、腎・泌尿器疾患			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	10	皮膚・口腔疾患、感染症			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	11	耳鼻咽喉科疾患、眼疾患			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	12	東洋医学・老年学からのアプローチ			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	13	社会学・経済学からみた高齢社会、高齢者の医療、介護など			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	14	高齢者のリハビリテーション			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
15	授業総復習・まとめ			まとめプリントを使用して復習しておくこと。			
評価方法	定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				100%
履修上の注意							

科目名	臨床運動学						
科目名(英)	Clinical Kinematics						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	花田穂積・松崎哲治		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として施設に従事		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	1. 運動学で学んだ基礎知識をもとに、正常な運動・姿勢・動作を理解する。 2. 疾患によって生ずる運動機能異常、正常運動からの逸脱を種々の方法により分析し、問題点を理解する。 3. 身体運動の生理学側面、特に運動器に重点を置きながら学習することにより、理学療法に必要な運動生理学の基礎的知識を理解する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		運動学で学んだ基礎知識をもとに、正常な運動・姿勢・動作を理解する。	
	○	○		○		疾患によって生ずる運動機能異常、正常運動からの逸脱を種々の方法により分析し、問題点を理解する。	
		○	○			身体運動の仕組みについて説明できる。	
		○	○			運動とエネルギーについて説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	やさしい運動生理学 杉晴夫 編 南江堂						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業オリエンテーション 骨格筋の構造、筋収縮のメカニズム				教科書の予習をしておく。	
	2	筋の収縮様式と筋力				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	筋線維のタイプとその特徴、運動ニューロン、運動単位、神経支配比・他				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	神経系による運動の調節;末梢神経と身体運動				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	5	神経系による運動の調節;中枢神経系と身体運動				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	国家試験対策 演習問題①				授業資料のまとめを復習しておく。	
	7	動作に影響を及ぼす要因①: 関節運動・体性感覚 動作に影響を及ぼす要因②: 動作における関節角度の計測・感覚の影響				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	動作に影響を及ぼす要因③: 姿勢制御 動作に影響を及ぼす要因④: 姿勢、動作を制御する要因				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	9	歩行分析演習①: 歩行周期の概念、立脚相・遊脚相・歩行様式 歩行分析演習②: 股・膝・足関節の角度変化、1歩行周期における筋活動				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	歩行分析演習③: 正常歩行観察・記録・歩行周期の細分化 歩行分析演習④: パッセンジャー・ロコモーター・床反力				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	11	疾患別異常歩行分析演習①: 頸髄損傷患者の歩行分析 疾患別異常歩行分析演習②: 脳卒中片麻痺患者の歩行分析				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	疾患別異常歩行分析演習③: 膝OA患者の歩行分析 疾患別異常歩行分析演習④: 脊髄小脳変性症患者の歩行分析				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	13	疾患別異常歩行分析演習⑤: パーキンソン病患者の歩行分析 疾患別異常歩行分析演習⑥: 股OA患者の歩行分析				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	疾患別異常歩行分析演習まとめ 国家試験対策				授業資料のまとめを復習しておく。	
15	まとめ				授業資料のまとめを復習しておく。		
評価方法	(1)授業の中で小テストを7~8回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	小テスト	○	○		○		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	運動療法学Ⅱ						
科目名(英)	Therapeutic exerciseⅡ						
単位数	1単位	時間数	30	担当者	山下 慶三・熊丸 真理		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	理学療法士としての治療的側面を中心とする運動療法の実践について、筋力増強運動やその他の運動療法の理論的根拠を学び、最新の方法を含め紹介していく。運動を通しての理学療法の効果も含め実技多く取り入れ実践的な授業を行っていく。						
授業形式	講義:	◎	演習:		実習:		
					実技:	○	
					※ 主たる方法:	○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				筋力に関する知識を深め、筋力発揮の特性について説明できる。	
	○	○	○	○		代表的な筋力増強運動を学生間で実施できる。	
	○	○		○		筋力低下の要因について理解し説明できる。	
	○	○				神経筋再教育・運動学習理論を理解し説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書: 1)市橋則明 編:運動療法学 第2版 障害別アプローチの理論と実際. 文光堂						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	筋力に関する基礎知識① 筋力とは(Strengthとpower)・興奮収縮連関・相対筋力と絶対筋力				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	2	筋力に関する基礎知識② 筋力発揮に影響する因子				配布プリントを復習し確認しておくこと。	
	3	筋力に関する基礎知識③:筋力発揮の特徴 代表的な筋肉に対する運動療法(股関節周囲)				配布プリントを復習し確認しておくこと。	
	4	筋力低下と筋力増強のメカニズム① 筋力低下の要素・筋力のトレーニングの効果				配布プリントを復習し確認しておくこと。	
	5	筋力低下と筋力増強のメカニズム② 筋力増強の原則(過負荷の原則、特異性の原則)				配布プリントを復習し確認しておくこと。	
	6	筋力低下と筋力増強のメカニズム③筋力増強運動の至適刺激 代表的な筋肉に対する運動療法(膝関節周囲)				配布プリントを復習し確認しておくこと。	
	7	筋力増強運動の実際:MMTレベルに応じた増強肢位 代表的な筋肉に対する運動療法(足関節周囲・体幹筋)				配布プリントを復習し確認しておくこと。	
	8	中間テスト				配布プリント・教科書で復習しておくこと。	
	9	筋力低下の捉え方① MMTの結果からの要因分析				配布プリントを復習し確認しておくこと。	
	10	筋力低下の捉え方② MMTの結果からの要因分析				配布プリントを復習し確認しておくこと。	
	11	神経筋再教育①:総論・目的・促通手技の紹介				配布プリントを復習し確認しておくこと。	
	12	神経筋再教育②:促通手技の紹介および臨床応用				配布プリントを復習し確認しておくこと。	
	13	運動学習:総論・練習方法の種類と特性				配布プリントを復習し確認しておくこと。	
	14	ウィメンズヘルス領域の紹介				配布プリントを復習し確認しておくこと。	
15	まとめ・実技試験対策				これまでの講義内容を復習し、理解しておくこと。 実技内容を学生間で練習し実技試験に臨むこと。		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○	◎			60%
	定期試験(実技)	◎	◎		○		20%
	中間テスト	◎	◎				20%
履修上の注意	定期試験には実技試験も含まれます。						

科目名	物理療法学Ⅱ						
科目名(英)	Physical AgentsⅡ						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	仲吉功治		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて理学療法士として勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	物理療法の定義や分類を学習し、理学療法における物理療法の位置づけを理解する。また物理療法で適応の多い炎症や疼痛それらに対する物理療法の考え方を学ぶ。各物理療法の特性・生理学的作用を学び、適切な使用方法を学び、実践する。その上で症例を基に適切な物理療法の選択が行えるよう臨床推論を行っていく。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				理学療法における物理療法の位置づけを理解し説明できる。	
	○	○				物理療法の適応の多い病態について理解し説明ができる。	
	○	○				各物理療法の種類・定義・目的を説明することができる。	
	○	○				各物理療法の治療効果、適応、禁忌の説明ができ、適切に実施できる。	
テキスト・教材 参考図書	吉田秀樹 編:Cross link理学療法学テキスト 物理療法学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション・復習(物理療法学Ⅰ)			シラバス、期末試験範囲の確認		
	2	物理療法総論:物理療法に必要な生理学 主な病態の理解:疼痛・組織修復			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	光線療法:赤外線、紫外線、レーザー 特性・実施方法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	牽引療法(概要・実施方法)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	電気療法(電気特性)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	電気療法(機器特性・設定方法)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	電気療法(実施方法・実技)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	中間テスト			これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと		
	9	国家試験問題①			これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと		
	10	国家試験問題②(グループワーク)			前回国家試験問題を解いておくこと		
	11	国家試験問題③(解説)			国家試験問題を復習しておくこと		
	12	症例検討①			これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと		
	13	客観的臨床技能練習①			これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと		
	14	客観的臨床技能練習②			これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと		
15	まとめ			これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと			
評価方法	(1)中間テスト(筆記)を実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	中間テスト	◎	○				20%
履修上の注意							

科目名	義肢装具学						
科目名(英)	Prosthetics and orthotics science						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	遠藤 正英		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	1.リハビリテーションにおける義肢装具の重要性と役割について理解する。 2.義肢装具の種類・目的・構造について理解する。 3.装具の疾患に対する適応・活用方法を理解する。 4.義肢装具の作製過程を学び多職種との協力について理解する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	○	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		リハビリテーションにおける義肢・装具の目的と役割について説明できる。	
	○	○		○		装具の種類とその目的について力学的要素を踏まえて説明できる。	
	○	○		○		疾患別に必要な装具を目的とその方法について説明できる。	
	○	○		○		義肢の種類と目的について力学的要素を踏まえて説明できる。	
	○	○		○		義肢装具の作製過程を学び多職種との協力について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	神陵文庫出版 理学療法テキストVI 義肢装具学 第2版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	義肢装具総論 義肢装具の支給体系				教科書の予習をしておく。	
	2	義肢装具の製作と材料 義肢装具におけるバイオメカニクス				教科書の予習をしておく。 授業資料を復習しておく。	
	3	義肢 切断者のリハビリテーション 切断者の動向				教科書の予習をしておく。 授業資料を復習しておく。	
	4	適合とアライメント				教科書の予習をしておく。 授業資料を復習しておく。	
	5	上肢切断の理学療法に必要な知識				教科書の予習をしておく。 授業資料を復習しておく。	
	6	下肢切断の理学療法				教科書の予習をしておく。 授業資料を復習しておく。	
	7	装具 装具の定義・目的・固定の原則				教科書の予習をしておく。 授業資料を復習しておく。	
	8	装具の種類と構造(上肢装具、下肢装具、体幹装具)				教科書の予習をしておく。 授業資料を復習しておく。	
	9	脳卒中片麻痺の装具 脳卒中片麻痺患者の特徴				教科書の予習をしておく。 授業資料を復習しておく。	
	10	脊髄損傷の装具				教科書の予習をしておく。 授業資料を復習しておく。	
	11	骨・関節疾患の装具				教科書の予習をしておく。 授業資料を復習しておく。	
	12	脳性麻痺の装具				教科書の予習をしておく。 授業資料を復習しておく。	
	13	側弯症の体幹装具				教科書の予習をしておく。 授業資料を復習しておく。	
	14	靴型装具の基本構造と種類				教科書の予習をしておく。 授業資料を復習しておく。	
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎		○		100%
履修上の注意							

科目名	内部障害 I						
科目名(英)	Internal Disability Studies respiratory organs						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	奥野翔太、山口寿		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	1. 呼吸の解剖と換気・ガス交換について説明ができる。 2. 代表的な呼吸器疾患の発生機序と病態が説明できる。 3. 呼吸機能の評価、治療の実際を理解する。 4. リスク管理ができる。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	△	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		内部障害領域において理学療法の変遷を説明できる。	
	○	○				内部障害領域において呼吸器疾患の現状を説明することができる。	
	○	○				内部障害により起こりうる身体機能、日常生活の問題について説明できる。	
	○	○				呼吸器理学療法の実施過程を説明することができる。	
	○	○		○		チーム医療において理学療法士に求められる役割を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:15レクチャーシリーズ理学療法テキスト「内部障害理学療法 呼吸 第2版」石川朗+玉木彰 編 配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	臨床に必要なCOPDの知識 9章、13章-4				授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習	
	2	慢性呼吸不全とCOPD 13章				指定範囲の教科書の予習・復習	
	3	フィジカルアセスメント・実技試験① 2章 5章				授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習	
	4	解剖・生理と医療面接 2章 5章				指定範囲の教科書の予習・復習	
	5	排痰の考え方・呼吸介助手技・実技試験② 8章				授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習	
	6	コンディショニング 7章				指定範囲の教科書の予習・復習	
	7	実技再試験①②・臨床に必要な呼吸生理学 1章 3章-6				授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習	
	8	呼吸生理学と運動療法 3章 10章				指定範囲の教科書の予習・復習	
	9	論文の読み方、調べ方・肺炎の理学療法				授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習	
	10	呼吸不全の病態 4章				指定範囲の教科書の予習・復習	
	11	エキスパートに学ぶ実臨床の評価とその意義 6章				授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習	
	12	酸素療法と呼吸理学療法 11章				指定範囲の教科書の予習・復習	
	13	初回に提示した症例についてまとめてみよう				授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習	
	14	吸引 15章				指定範囲の教科書の予習・復習	
15	人工呼吸器の理学療法は何が違うか? 12章				人工呼吸器関連の国家試験問題に全て正解		
評価方法	奇数回の授業の成績は、各授業内で行っている課題を全て回答すれば、C評定です。実技テストへの合格でB評定、良質な質問の実施によってA判定とします。質問の判定方法は授業内で提示します。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内課題	◎	◎				40%
	実技試験			○			10%
	質問の実施		○		○		20%
基礎テスト		◎				30%	
履修上の注意	奇数回の授業は全てGoogle classroomで実施します。定期テストは一切行いません。欠席した場合は、Google classroom上で個人で課題の遂行を全て行って下さい。課題は1単元180分間で設定しています。						

科目名	地域理学療法学							
科目名(英)								
単位数	2	時間数	45時間	担当者	今別府 和徳			
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務			
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年							
授業概要	「地域理学療法学とは、動作や活動への多面的な働きかけにより人々が地域での暮らしを主体的につくりあげられるように探究する学問」と定義されています。人々の“動作”と“活動”を専門的な立場から捉えて、主体性を重視しつつ多面的に働きかけていくための知識や技術の習得を目指します。							
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:			
					実技:			
						※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○		○		地域医療とリハビリテーションを歴史的背景を踏まえて概念を知る。		
	○	○		○		地域医療とリハビリテーションの中の地域理学療法についてその役割と専門性について説明できる		
	○	○		○		地域医療とリハビリテーションサービスの一つである社会制度・社会資源について説明できる		
	○	○		○		地域医療とリハビリテーション・地域理学療法の実践について知り、考え実践できる		
テキスト・教材 参考図書	教科書: 牧迫飛雄馬・吉松竜貴 編: 最新 理学療法学講座 地域理学療法学. 医歯薬出版株式会社, 2021							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	1.地域における理学療法士の役割 2.介護保険制度の理解				教科書内容について、読み返し用語については調べてください。また演習課題に取り組み、理解を深めます。		
	2	3.地域理学療法に求められる医学的管理 4.地域での理学療法評価				教科書内容について、読み返し用語については調べてください。また演習課題に取り組み、理解を深めます。		
	3	確認テスト 5.サービス種別による地域理学療法の実践(訪問理学療法)				これまでの授業内容に対する確認テストを行います。		
	4	6.サービス種別による地域理学療法の実践(通所系サービス) 7.サービス種別による地域理学療法の実践(入所系サービス)				教科書内容について、読み返し用語については調べてください。また演習課題に取り組み、理解を深めます。		
	5	確認テスト 8.疾患別にみる地域理学療法の特異性(中枢神経疾患)				教科書内容について、読み返し用語については調べてください。また演習課題に取り組み、理解を深めます。		
	6	9.疾患別にみる地域理学療法の特異性(運動器疾患) 10.疾患別にみる地域理学療法の特異性(循環器疾患)				教科書内容について、読み返し用語については調べてください。また演習課題に取り組み、理解を深めます。		
	7	11.疾患別にみる地域理学療法の特異性(がん)				教科書内容について、読み返し用語については調べてください。また演習課題に取り組み、理解を深めます。		
	8	確認テスト 12.生活環境の整備				これまでの授業内容に対する確認テストを行います。		
	9	13.理学療法士による街づくり 14.小児領域の地域理学療法				教科書内容について、読み返し用語については調べてください。また演習課題に取り組み、理解を深めます。		
	10	15.地域における理学療法研究 地域アセスメント(資料は別に配布予定)				教科書内容について、読み返し用語については調べてください。また演習課題に取り組み、理解を深めます。		
	11	確認テスト 地域アセスメント-演習 日本-				インターネット情報より、地域アセスメントを行いません。レポート課題に取り組み、理解を深めます。		
	12	地域アセスメント-演習 都道府県- 地域アセスメント-演習 市町村-				インターネット情報より、地域アセスメントを行いません。レポート課題に取り組み、理解を深めます。		
	13	地域ケア会議-演習 事例1- 地域ケア会議-演習 事例2-				自立支援例や困難事例を模範的に経験し、理学療法士としての視点をグループワークを通して養います。		
	14	地域ケア会議-演習 事例3- 住民運営通いの場-演習 事例1-				自立支援例や困難事例を模範的に経験し、理学療法士としての視点をグループワークを通して養います。		
	15	住民運営通いの場-演習 事例2- 住民運営通いの場-演習 事例3-				地域での集団に対する支援方法をグループワークを通して養います。		
	評価方法	提出課題(演習課題・確認テスト・グループワーク)と定期試験をもとに評価します。成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とします。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		演習課題・確認テスト・グループワーク	◎	◎		◎		40%
	定期試験(5者2択)	◎	◎		◎		60%	
履修上の注意	授業1～10は遠隔授業(teams)、授業11～15は対面授業(パソコン室)を予定しています。授業1～10は指定の曜日・時間帯は講師とteamでオンライン接続します。オンライン接続できない場合は遅刻・欠席・早退とみなします。授業11～15は対面授業であるため、新型コロナウイルスの感染状況により順序が前後する可能性があります。							

科目名	神経障害 I						
科目名(英)	Neuropathy I						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	峰岡 哲哉		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. パーキンソン病とパーキンソニズムの違いについて説明できる。</li> <li>2. パーキンソン病を捉えるための適切な情報収集が出来、問題点と目標の考え方が理解できる。</li> <li>3. パーキンソン病に対する運動療法の項目を挙げ、理論的根拠を理解した上で施行することが出来る。</li> <li>4. 運動失調の分類と代表的疾患を挙げることができる。</li> <li>5. 運動失調を捉えるための適切な情報を収集できる。</li> <li>6. 運動失調に対する運動療法の項目あげ、理論的根拠を理解した上で実際に施行することが出来る。</li> <li>7. その他の神経疾患について、代表的疾患を挙げ、理学療法の方法を説明できる。</li> </ol>						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:	△	
					※ 主たる方法:	○	
					その他:	△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		適切な情報収集と目標設定から各疾患から考えら得る問題点をあげその根拠を説明できる。	
	○	○		○		パーキンソン病の病態把握とその運動療法について根拠を理解して説明できる。	
	○	○		○		運動失調の病態は空くとその運動療法について根拠を理解して説明できる。	
	○	○		○		各神経疾患の運動療法についてその目的と根拠を理解し説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病気がみえる Vol7 脳・神経</li> <li>2. パーキンソン病に対する標準的理学療法介入</li> </ol>						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	科目オリエンテーション 中枢神経系の解剖・生理				教科書の予習をしておく。	
	2	パーキンソン病について:パーキンソン病の病態・生理① パーキンソン病について:パーキンソン病の病態・生理②				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	パーキンソニズムの理解 パーキンソン病に対する薬理の理解 パーキンソン病の評価点				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	パーキンソン病 ここまでの整理 レナードの朝より病態を想起する。				小テスト実施(ここまでの理解) レナードの朝を見て病態を想起する。	
	5	パーキンソン病の理学療法 ケーススタディ				授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	パーキンソン病の理学療法 介入方法				実技を実施して 介入方法を学ぶ。	
	7	パーキンソン病の理学療法のまとめ				パーキンソン病に対する理解確認 小テスト実施	
	8	運動失調症の病理と脳機能解剖① 運動失調症の病理と脳機能解剖②				授業資料のまとめを復習しておく。	
	9	運動失調の評価と問題点				授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	運動失調の理学療法				失調症 病態生理の理解 小テスト実施	
	11	運動失調の理学療法(ケーススタディ)				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	運動失調の理学療法のまとめ				失調症の理学療法 理解の確認 小テスト実施。	
	13	筋萎縮性側索硬化症と多発性筋炎の病態生理				授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	神経難病に対する治療アプローチの原則を理解する				授業資料のまとめを復習しておく。 小テスト実施	
15	まとめ 国家試験対策				国家試験問題で全体の理解を確認を図る。		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○		○		50%
	小テスト	○	○		○		30%
課題提出	○			○	○	20%	
履修上の注意							